

一言ご挨拶

会長 内藤 修

会会長の重責をおびることに相なりました。

指導により行事に参加して参ります。したが、最高責任者となると果たしてその任に堪えるかどうかがながら心もとないのであります。が、かかる上は能う限りのことを致して皆様方のご期待に背かぬようになります。

幸いにして、直接私を助けて下さる井口副会長初め鈴木理事長は、その道のベテランでいらっしゃるし、各役員の方々も長年のキャリアの持ち主でありますから、大いにご指導願つて任期だけを大過なく勤めさせていただく所存でございます。

県山協の事業は色々ござりますが、私なりに考えると、加盟団体の登山技術の向上研究は、どうしても欠く事の出来ない重要な行事で、その他に登山者の遭難事故、登山者による自然環境汚染、企業による開発と云う名前の自然破壊、等々の防止が現在最も憂慮すべき問題ではないかと思ひます。

開港と共に名前での自然破壊方止

# 雑感

雜感

理事長 鈴木敏雄  
々交流の場となる協会へ  
山岳協会といふ組織はいかにも  
かめしい組織のように解されて

ただ、ここでこの協会の集りが單なる親睦団体のみの集團となつたならいつかは必ず屋台骨がぐらつく事態がやってくることも想定され、危機と呼ぶにふさわしい一時期が訪れることが必定で、それは、一つは感情的な、そして理性的な考え方の相違からくる対立と、もう一つは山や会に対する熱意の喪失からくる沈滯で、必然的に分解するか、脱落するか、或は過去の精算に追われる場合が多々ある。まして親睦団体の集合体となつては、自然に親しみ自然の恩恵を受ける権利があるやと主張しあつての緑を求めるもの必ずしも山岳会員とは限らない。

然に自然に親しみ自然の恩恵を受ける権利があるやと主張しあつての緑を求めるもの必ずしも山岳会員とは限らない。

情操豊かな情熱で山の緑を守り緑のある処、必ず鳥の騒ぎを聞ける山にするためにも山を汚さず、美しい憩の場所でもあり、又酷しい冬山の様相百軒する山々も必ずや春も訪れ花も乱れ咲く緑の山々である。

常に我々のグラウンドであり、

（昭和四十九年度事業の重点）  
昭和四十九年度の目標として、正しい登山についての指導体制の確立と、事故防止につながる管理体制の確立強化を通じ、協会と各山岳会との密接な意志、連繫の確立を図るために、  
① 安全管理体制の強化  
② 会員相互間のコミュニケーション

えることも我々の責務であり、自然保護の精神に徹してから始めて自然に親しむ権利を履行し、登山のマナーとして常に我々が身をもつて体得しなければならない第一歩ではなかろうかと痛感しております。

私はこのよう見地から、会員相互間の手綱を協会の紳として、協会員皆さんがより楽しく安全に個々の山行が行われる日を祈つております。

自然が破壊され貴重な資源がどんどん失なわれつゝある現状にあります。反面、かけかしの美しいこの美しさ、そのピラミッドの頂点と底辺との交流の場もあり、又他のピラミッドとその空間との交流も自ら生まれてくることあります。

ると、より一層その永続性或は運営に問題が残る場合が多いと思われる。

少なくとも加盟各団体においてはこのような単なる集合体ではなく、永年の定礎の上に築かれたビルミッドの団体であり、日夜たゞまぬ山への情熱にかけられながら躍する会員の皆さんは、常に山

試練の場でもあるこの山の縁を、より楽しく保持することも我々として使命の重要な一つのポイントとして自覚しなければならない。

しかし、残念なことに一部の心得者のなす術か、登山人口が増加するにしたがい比例して悲しきかな遭難事故も増加し、またそ

正しい登山についての指導体制の確立と、事故防止につながる管理体制の確立強化を通じ、協会と々山岳会との密接な意志、連繋の疏通を図るために

## （昭和四十九年度事業の重点）

第一歩ではなかろうかと痛感しております。

然保護の精神に徹してから始め  
自然に親しむ権利を履行し、よみ  
登山のマナーとして常に我々が自  
をもつて体得しなければならぬ

ら、その前によく自然について学び又その恐ろしさを知り、自然の法則に従い、遭難事故は絶対に控えない周到綿密な計画と準備が必要であり、又このすばらしい自信を今ままの姿で永遠に後世に伝えることも我々の責務であり、自

反面　かけかしのなしこの美しい  
自然が破壊され貴重な資源がどんどん失なわれつつある現状にあります。

唯一の我々の交流の場でもあります。試練の場でもあるこの山の緑を、より楽しく保持することも我々の使命の重要な一つのポイントとして自覚しなければならない。

しかし、残念なことに一部の工夫心得者のなす術か、登山人口が増加するにしたがい比例して悲しかな難事故も増加し、またそ

の二項目を目標として、会員相互間の親睦と和を図りながら、単に協会が機械的、事務的な意味での伝達機関にとどまることなく、会員同志の人間らしい接触を図ろうとするもので、ひいては組織の充実、確立に近づくことを目的として昭和四十九年度事業を計画しましたので、会員諸氏の格段のご協力をお願いする次第です。

行事は年間、五～六回程度です。出来得る限り大勢が参加されるよう責任者の御配慮をお願いします。

主要行事は事前にその都度会報或は実施要項等で各会員にて詳細連絡しますが、協会の明るい登山界造りに積極的に歩み出す昭和四十九年度事業を大いに盛り上げてほしいものと願っております。

最後に私に与えられた二、三思いつくままに雑感を述べてみましたが、記述の中に独断や偏見の多いのは私自身の経験の貧しさからくる視野の狭さと、私自身そういう抽象的な一般的の効用をそれはほど重視していないという事実ではなかろうかと反省しております。

燃焼は易く、持続は難い、山の焚火で経験したことと思いますが、しかし困難な仕事というものはその困難さの故にそれをやりとげるに足る意義を持つものであるとしたなら、私達は山岳会であろうと協会であろうと、その運営と、いうものに大きな情熱を持ちつづけてけつして悔いるところはないはずであると信じております。

六  
甲  
山

六甲山　越後支部長　藤島玄  
神戸の裏山に六甲がある。初めの訪れは終戦直後で、神戸市街は焼土と化し、外洋船のいない港を機雷掃海の小船が、赤い夕陽を受けてうごめいていた。或時は頂上の外人の空屋の別荘を背景にチラチラ初雪が降っていた。越後の初雪に逢わぬのに、こんな山に逢おうとはとつぶやいて、有馬温泉道を下つて行った。或る時は素晴しい樹木に飾られているのに、スキ場に雪が降らず、先取りした製氷会社の氷積みのトラックが各登山道から続々登つてくる皮肉な現象をみた。

今年は、紅葉にまだ早い六甲の日曜の朝に登つてみた。三々五々老幼男女、登る者あり下る者ありだ。宿醉の足が確りしてきた頃、中腹の茶屋に着いて熱いミルクを求めた。細長い凸凹のティブルに二十人ばかりが相対して腰掛けている。酒、ビール、お茶、ジュースが銘々の前に立っている。注ぎもしなければ、受けもない。自分の物は自分が飲むらしい。そんなことより、その和気あいあいのように伸びたり縮んだりしていく。健康で明朗で嫌みのない高笑いの連続。聞いてこちらも思わず笑ってしまった。もちろん、帰

りがあるから酔っ払いはない。下の茶屋はひとまわり大きい。庭に体操、ダンス、歌謡曲に踊るものあり、座敷に謡曲、詩吟いやは健全な安上りな社交場の感がしてきた。一隅の石祠に、ここへ毎朝登っていた故人の杖やステッキが數十本供えてある。

登る人、下る人、行き違うことに「お早う」の挨拶、そして立止つて何かを語り合つてから別れて行く。みんな古びた服装、チビた運動靴、中には裸もあれば、背負子ザックにピッケルもいる。急ぐでもなければ緩つくりでもない。日曜でなければ、帰つて出勤の人も多いらしいし、中小業社の主人から大会社の重役級の人もいる。行き逢つた一人はヒマラヤトレッキング三回、今度はスイスへ行くと云つていた。アフリカへ行つてきた婦人もアラスカから帰つた隠居さんもいるという有様だが、実際に静かに落ち付いて自分のベースをまもつている。だんだんと羨しくなってきた。

三千回、五千回、一万回以上の人もあると聞いた。定めた茶屋の掲示板へ自分の名を書く出勤簿がある。ゴルフ、バチンコ、マージャン、マイカーを乗り廻す、世を挙げてレジャーブームであるが、そんななかに一番簡単素朴な歩いたり登つたりを、実に楽しく続けている群れのあるのを実見して感無量であった。

そのハイキングコースの終点にあるのは極めて粗末の茶屋だけで

展望も無ければ温泉もない。人はただ適当距離を歩いて、記名してから、お茶が奮発して缶ビールでも飲んで、高らかに健康を祝しあつて、朗らかに笑つて帰り、美味しい家の朝飯を摂るのであろう。

沢沿いの道は舗装してあつたり無かつたり、車は時間制限で一台も会わない。左右岸は高く落葉樹林が茂り、各所に散点する茶屋や花が植えてある。

私は越後にこうした処を考えてみた。新発田、新津、加茂、長岡など、市街と裏山のバランスも悪いが、雪という難物がある。それもやる気があれば克服できるが、また、やる気のないものには絶好の逃げ道にもなるう。

日常生活の周辺を改めて見廻わすと、余りにも汚れきっている。こうした山登りとまでいかなくとも自分の身体と氣力を養うため、自然の中を毎朝歩く我慢と忍耐こそ必要ではあるまいと痛感した。

朝日駒ヶ岳

十一月

|          |       |
|----------|-------|
| 北海道の駒ヶ岳  | 一四〇米  |
| 秋田県北の駒ヶ岳 | 一五八米  |
| ×秋田駒ヶ岳   | 一六三七米 |
| ×岩手県の駒ヶ岳 | 一一三〇米 |
| 山形県南の駒ヶ岳 | 一〇六一米 |
| 新潟県北の駒ヶ岳 | 七七六米  |
| ×魚沼駒ヶ岳   | 二〇〇三米 |
| 頸城駒ヶ岳    | 一四八七米 |
| ×会津駒ヶ岳   | 一一三三米 |
| 箱根の駒ヶ岳   | 一三三六米 |
| ×甲斐駒ヶ岳   | 二五六六米 |
| ×木曾駒ヶ岳   | 二九五六米 |
| 南駒ヶ岳     | 二八四二米 |
| 越中駒ヶ岳    | 二〇〇三米 |

ようし／駒ヶ岳をみんな登つて見よう、という野望を、その時起したのであった。しかし未登の駒ヶ岳は遠かたり、不便だつたり、連れがなかつたりで、荏再今年（四十七年）になつてしまつた。かくてはならじ、と手始めに出かけたのが、県北岩船郡朝日村の駒ヶ岳である。以下朝日駒（ケ岳）と呼ぶこととする。

前書 二  
この朝日駒については、昨四十  
六年村上山岳会の早津邦俊君に照  
会して色々資料を送っていたが、  
たが、要するに登山道はなく、又  
過去に登山の記録もないというこ



たが、もう道の傷跡もない雑木藪になつていて、かつての人と峰との親しかった結びつきを見出すことは不可能だった。数十年あるいはそれ以前の昔から、佐渡の人々の生活に密着してきた越路も、通る者がなれば數年で太古の姿に還ってしまう。自然の営みは非情で厳しい一面もある。峰から柿野浦への下りは僅か一時間余に過ぎないが、山田へ出るまでの道は荒れていた。村人は山腹に拠いた田畠への登降を繰り返すだけで、再び峰に立つことはないだろう。最近は全国的に自然保護運動が盛り上がり、人々が公害文化と対決する姿勢を強めている。山も海も汚れるに任せている現状では当然のことだが、山の場合は登山者によるゴミ公害もさることながら、レジャー・パークに便乗した観光自動車道やロープウェー、ゴルフ場等の建設が自然環境を損い、醇朴な山村を俗化させる元兇だから、まずそれを強力に規制することが先決だ。自然を利用する人は人間の知恵で、雑木山を坊主にして植林したり、あるいはダムを造つて水利を生かし、林道網で山中の交通を確保するといった治山治水は自然と人間との共生が条件となる。例えは朝日連峰のブナ林が伐採蚕食されつあると非難する声もあるが、貴重な原生林を開するには、それなりの理由もあるから、人災を起こさぬ周到な配慮があるならば、徒らに自然美

の喪失を嘆くよりも、資源の活用による人間の福祉が優先と割り切る方が妥当かも知れない。林野庁という役所は無粹で気難かしいところだが、自然破壊が専門の筈はない。要是慎重な計画伐採と、爾後の造林施策に万全を期して次代に備えるといった、着実な自然利用を願うということか。

全国の山に開発が進められる一方、集団離村で放棄された僻地や古い峠道など、忘却の彼方で自然が蘇えりつつある所もある。自然は逞しい。人間の残した傷跡を癒そうと、自然の摂理は歳月の特効薬を山肌に塗る。失われた緑を取り戻せば鳥や獣たちの生活圏も生れる。山がそうした本来の姿に立ち返る時間は人間的な観念で計ることはできないが、それはいつか必ず実現する。自然は大らかで強靭だからだ。しかし、なおその時期を少しでも早めるために、それぞれの環境にふさわしい自然の回復に協力するのが、恩恵に預かってきた人間の思慮というものだろう。

当面は登山者が今以上に山を荒したり、ゴミの山で他人に不快感を与えるせぬよう、まず自分のゴミは自分で必ず始末するといつたマナーを、未組織の登山爱好者にも徹底させるよう、山岳協会の指導で、登山団体が積極的なキャンペーんに乗りだすことをお願いしたい。

この秋、尾瀬を訪ねた時、管理員から次のよき話を聞いた。「かつて尾瀬の美化の一環として鉄製の屑籠を各点に配置したら其の周辺が逆に溢れたゴミで汚染されてしまった。そこで一計を案じて屑籠を撤去して、持返りを指導啓蒙したら、ゴミが尾瀬から消えた」と。成程、尾瀬は前に訪れた時よりも綺麗になっていた。作戦の狙いが本質を見抜いていた事がこの計画を成功に導いたのであろうと頭が下った。

本県には、山の清掃団体で、新潟県山のゴミ会議なる団体が存在している。私はその会員では無いが、参加せねばならぬ義務は無いが、参加しないと何やら罪悪感いた変な気分が残る。

此の奇妙な名称の団体の活動を山のゴミの問題は、その本質的なものを解決せぬ限り、良識ある登山者が永久に「ゴミ」の二字をアルビニズムの上に掲げた変則的なウソヌンする氣など毛頭無いが、軒下に屯るする雀の鳴りに誘われ、心地良い眠りから、騒々しき日常生活に引戻される。灼熱の太陽のもと、愛らしい花をつけていた百日紅も、今は寒々しい。今日も窓から初冠雪を頂く火打山を望むことが出来る。手にとるほど近くにみえる山ではあるが、久しく尋ねない山の一つでもある。

山とは、山岳会とは、合宿とは、リーダーとは、いくつかの「もうぞう」めいたことを、思いつくままに乱記してみようと思う。

五月のゴールデンウイーク、七月の夏山シーズン、正月の連休等を想像すれば、自ずから判ることであるが、各大学、高校の山岳部、各方面のいろいろな山岳団体が合宿をやつしている。全部ではなく一部が囚人の一团と同じ行動をしているのに気がつかないが、基本問題から姿勢を正し、山に入つたが、その都度、国有林野保護監視員と自然公園指導員の二つの奉仕的役職を持つて、自然保護と自然の美化に少なからず協力して来たつもりであるが、根本的な問題が放置されたままの各種行動言論を苦々しく思つて来了一人である。

## 山のゴミ問題

### 中条山の会 五十嵐 力

この秋、尾瀬を訪ねた時、管理員から次のよき話を聞いた。「かつて尾瀬の美化の一環として鉄製の屑籠を各点に配置したら其の周辺が逆に溢れたゴミで汚染されてしまった。そこで一計を案じて屑籠を撤去して、持返りを指導啓蒙したら、ゴミが尾瀬から消えた」と。成程、尾瀬は前に訪れた時よりも綺麗になっていた。作戦の狙いが本質を見抜いていた事がこの計画を成功に導いたのであろうと頭が下つた。

本県には、山の清掃団体で、新潟県山のゴミ会議なる団体が存在している。私はその会員では無いが、参加せねばならぬ義務は無いが、参加しないと何やら罪悪感いた変な気分が残る。

此の奇妙な名称の団体の活動を山のゴミの問題は、その本質的なものを解決せぬ限り、良識ある登山者が永久に「ゴミ」の二字をアルビニズムの上に掲げた変則的なウソヌンする氣など毛頭無いが、軒下に屯るする雀の鳴りに誘われ、心地良い眠りから、騒々しき日常生活に引戻される。灼熱の太陽のもと、愛らしい花をつけていた百日紅も、今は寒々しい。今日も窓から初冠雪を頂く火打山を望むことが出来る。手にとるほど近くにみえる山ではあるが、久しく尋ねない山の一つでもある。

### 高田ハイク 橋本 正巳

この秋、尾瀬を訪ねた時、管理員から次のよき話を聞いた。「かつて尾瀬の美化の一環として鉄製の屑籠を各点に配置したら其の周辺が逆に溢れたゴミで汚染されてしまった。そこで一計を案じて屑籠を撤去して、持返りを指導啓蒙したら、ゴミが尾瀬から消えた」と。成程、尾瀬は前に訪れた時よりも綺麗になっていた。作戦の狙いが本質を見抜いていた事がこの計画を成功に導いたのであろうと頭が下つた。

本県には、山の清掃団体で、新潟県山のゴミ会議なる団体が存在している。私はその会員では無いが、参加せねばならぬ義務は無いが、参加しないと何やら罪悪感いた変な気分が残る。

此の奇妙な名称の団体の活動を山のゴミの問題は、その本質的なものを解決せぬ限り、良識ある登山者が永久に「ゴミ」の二字をアルビニズムの上に掲げた変則的なウソヌンする氣など毛頭無いが、軒下に屯るする雀の鳴りに誘われ、心地良い眠りから、騒々しき日常生活に引戻される。灼熱の太陽のもと、愛らしい花をつけていた百日紅も、今は寒々しい。今日も窓から初冠雪を頂く火打山を望むことが出来る。手にとるほど近くにみえる山ではあるが、久しく尋ねない山の一つでもある。

### 山のゴミ問題

この秋、尾瀬を訪ねた時、管理員から次のよき話を聞いた。「かつて尾瀬の美化の一環として鉄製の屑籠を各点に配置したら其の周辺が逆に溢れたゴミで汚染されてしまった。そこで一計を案じて屑籠を撤去して、持返りを指導啓蒙したら、ゴミが尾瀬から消えた」と。成程、尾瀬は前に訪れた時よりも綺麗になっていた。作戦の狙いが本質を見抜いていた事がこの計画を成功に導いたのであろうと頭が下つた。

本県には、山の清掃団体で、新潟県山のゴミ会議なる団体が存在している。私はその会員では無いが、参加せねばならぬ義務は無いが、参加しないと何やら罪悪感いた変な気分が残る。

此の奇妙な名称の団体の活動を山のゴミの問題は、その本質的なものを解決せぬ限り、良識ある登山者が永久に「ゴミ」の二字をアルビニズムの上に掲げた変則的なウソヌンする氣など毛頭無いが、軒下に屯るする雀の鳴りに誘われ、心地良い眠りから、騒々しき日常生活に引戻される。灼熱の太陽のもと、愛らしい花をつけていた百日紅も、今は寒々しい。今日も窓から初冠雪を頂く火打山を望むことが出来る。手にとるほど近くにみえる山ではあるが、久しく尋ねない山の一つでもある。

### 山のゴミ問題

ながら監視している先輩や偉い人達。ときどき「がんばれ」とか「どうした」とか氣合を入れている。暮営地に着くと、それ飯の仕度だ、やれなんだとき使う。こういう環境で成長する山男?達の精神状態は如何なものとなるのであるうか。

又岩登りに憑かれた尖鋸派は、アクロバットが出来ない山男は、山男でないと軽蔑する。尾根歩きやそれに類似した登山は登山ではないと高語する。尾根歩きにして、何十キロの荷物を担いで、あのルートを何時間で走破したと自慢する。確かに登山の重要な技術であり、ポイントのひとつでもあるが、あくまでもその一つに過ぎない。又良く「山のルール」という言葉がある。現在日常使われているような意味では、山に於てこれほどあいまいな、これほど誤解されやすい言葉はないのではないかだろうか。例えばどんなに喉が渴いても行動中には水を飲まない人がある。水はなるべく飲むなどいうルール、所謂公式があるからであろう。雪をたべるな、足をなげだして休むな、ピッケルを杖の代りに使うな、ETC。いろんな公式がある。公式は公式として認められるが、すべてが公式通りにゆかない筈である。なにもかも公式に従つて登山をしているから、人形みたいなもので、全く個性が感じられない。ちょっと公式にあてはまらない様な場面に直面すると、手も足もできない。変則にしろ何にし

第によつて、いくらでも手段を変えてその統制をとる者は、せいぜい四年、五年間の合宿経験者か、一定期間訓練されたりーダーにすぎない。こうして公式好きのリーダーが出来上る。こんなことよりもつと山についての実践的な生活の知恵を身につける様な山行を体験した方が、よっぽど良いのではないであろうか。勿論知識は大切である。いくら知識をつめこんでみても、疊の上の水練で、山の変容するさまざまのケースにあてはまらない場合に必ずぶつかる。山に於る知識は、体験を積み重ねる以外に仕方のないものかも知れない。あるときの伴わない知識はどうしても公式主義になり易いのではないであろうか。「山のルール」とは公式主義の同義語でしかないと感じられる。例えは「荒れる日には動くな」という。しかし、これも状況によっての話であると思う。それ相応の実力、知恵があれば、行動しても差支えないと考えるが、どういふ意味では、山には一切のルールがないと言つても過言ではないのではないだろうか。あるとすれば「山には一日として、他と同じ状況はない」ということぐらいいでしようか。へたに山のルールにとらわれると、かえつて遭難す

登山報告

十日町山路野会 滝沢信一

私共十日町山路野会では昨年六月より二ヶ月間の予定で、ペルーディス、ユルディラ、ブランカ群に登山隊を派遣し、ネバト、アンチエイ（六、二二二米）の第一次登及び無名峰（五、六四七米）登頂を行いました。私共がペルーディスを選んだのは、南北七万米に及ぶ、アンデス山脈の中でも、最も高峰が集中していること、インカ帝国の歴史の跡を訪れることが出来ることとの二つの理由からです。しかも、乾期は天候安定していること、比較的少人でも、登山出来ること、アプローチも短かく往復の飛行機以外で安い費用で、登山が出来る等も、アンデスを選んだ理由で

イ、チヨの二つのピークに決定しました。海外での全般的な準備を始めました。海外での山の経験も乏しく、まして地球の裏側の事情など、始めは全く、理解の事情に明るい人々の話を聞く事から始まりました。集められるだけの資料の勉強、氷雪に対する訓練、スペイン語の勉強、装備や資料の研究など、やらなくてはならない事があまりにも多く、時間がいくらあっても、足らない程度になりました。県山協の御配慮による日山協の推せんも頂き、在日ペルー大使館、外務省などにも、足を運び、ようやく、実現に近づきました。隊員は予定者が、事情で不参加になると出で、最終的には五人になりました。計画では装備を空輸することにしておりましたので、人数が少ないと、それだけ（一人四〇kg）、装備を持込めないため、一人四〇kg合計二〇〇kgに今装備を縮少することには苦労しました。

○米のこの町からは、間近に五、五〇〇米クラスの純白の峰々が望まれ、アンデスの真只中に入つた実感がヒシヒシと感じられます。ワラスに着いたその日、アルパマヨでの東京アツセントクラブの遭難の報が入り、急いで遭難救助隊に早便りです。私共五人の他は、単独行の工学院大OB藪並武士君を加えて六人、それにボーダー達で、翌日ワラスを出発しました。アルパマヨ街道として、そのつらさは、日本まで聞えておりますが、高度順化の出来てない体で、殆んど一日半まったく水のない、峠越（四、八〇〇米）えは、想像以上につらいキャラバンでした。アルパマヨのBCに、たどり着くと、アッセントクラブの負傷した隊員二人は、情報よりも元気で、同じ所にBCのあるスペイン隊に世話をなつておりましたが、日本人が救助に来るとは思わなかつたと、喜び、持参の日本食に感激です。クレバスに、墜落し、死亡した高野氏の遺体は翌日、ボイタ一連に、かつがれて、下山、負傷の二人は馬で我々が付添い下山、ワラスにて、葬儀を行いました。この救助活動のために、私のキャラバンは予定より十日近くも遅れ、七月五日ようやく、チエンティに向けて出発しました。アンデス登山の良さの一つはこのキャラバンです。私共の全装備食料は約一トン、十七頭のロバや馬に振り分けてつけます。アリエロと呼ばれる馬方は四と五頭に一人の

割で付き、ポルタードール（ボータード）一）は、それら全部の指揮をとります。私共は、たゞその後を布拉空身で歩いてゆくだけの大名旅行です。三日目の午后には始めて目ざす、チンチエイが見えて来ました。あまりにも遠く、そして純白のピラミッドの様なチンチエイを見た時に、この山を選んだ喜悦びと、はたして、登り切ることが出来るだろうかと、一抹の不安を感じました。BOは四、二〇〇米のブカラントラユーチヤ（湖）のはとりです。こゝで、ロバやアリエロを帰し、私共六人（隊員五人とアルパマヨ以来の藪並氏も参加）とポルタードールの、バブロの七人になりました。キャラバンをして来た、ケブラダオンダ（オンドダ谷）を見おろし眼前に、ブランラ湖と、ベバド・ブカラントラ（六、一四七米）を望む、絶好のBOです。アルパマヨで、高度順化の出来ている体は、この高度で、全員快調で、ルート工作や、荷上げも、非常に順調に涉りました。七月九日四、六〇〇米に第一キャンプ設営。七月十四日五、〇〇〇米に第二キャンプ設営。七月十七日五、三〇〇米にAC建設を終る。アンデスは日中、日のあたる所では温度が三十度近くもあり、夜はマイナス十度くらいに下るために水の状態は、非常に不安定で、しかも複雑です。そのため、氷河上での荷上げのルートは数日で、変わることもあり、又氷河の崩壊によるナダレは昼夜を問わず、四

六時中ものすごい音と共に発生します。しかし登山技術及び装備は、日本の山で通用するもので充分です。特に製作したものは、スバー（ジユラルミンパイ）と鋼バシゴくらいで。食料は重量の関係上殆んど全部を現地購入にしましたが、まったく不自由なく、日系人も多いためか、味は悪いが、ミソ醤油まで、購入することが出来ました。荷上げの昼食は殆んど、ごはんを、弁当に入れて、食べておりましたので、まったく日本のです。五、〇〇〇米の第二キャンプまで、圧力ナベにより、米を主食にしておりました。アタック体制も出来上り、七月二十一日早朝、AOより、小宮山、藪並の二名がまず、アタックに出発、第二キャンプより金子、遠田根津の三名が、あとを追つて出発しました。先発バーティが、ルートを作を行い乍ら登りましたので、頂上には、三十分程の差で、午后五時と五時半にそれゝ登頂しました。午后八時半全員無事、AOに帰着致しました。ルートは南峰から、ノーマルルートです。計画の一つであった、チンチャイチンニの試登は、前記の救助活動のため、日数的に断念。BC近くの無名峰に目標を変え、AC建設後、七月三十日に、登頂、ネバド、セディリヤ（綱の峰）と呼びました。

|                   |
|-------------------|
| 跡など見学。又金子、蔽並は、ペ   |
| ルー最高峰、ワスカラ登山を行    |
| いました。八月十九日、金沢大学   |
| 隊の、チャクララフでの遭難救助   |
| のため、滝沢、金子、蔽並の三名   |
| は、その救助活動に参加、九月五   |
| 日ワラスを離れました。       |
| 私共の登山報告は、「やまみ     |
| ち」(十日町山路野会) 第九号。  |
| 「アンデス」(日本アンデス会    |
| 議) 一号。「岩と雪」(山と渓谷  |
| 社) 30・31号等にあります。  |
| 隊員名簿 (生年月日)       |
| 隊 長 滝沢信一          |
| 自 営 一九三七、五、一六生    |
| 涉外医療 小宮山市衛        |
| 会社員 一九四五、三、一四     |
| 装 備 金子武司          |
| 農業 一九四五、三、二一      |
| 食糧記録 遠田正利         |
| 会社員 一九四七、一、二〇     |
| 会 計 根津竹夫          |
| 自 営 一九五〇、一、一八     |
| 閑川村山の会 平田大六       |
| 「国体でなければゆけない大会会   |
| 史上最遠の山岳」私たちはひそか   |
| に屋久島行の幸運を喜びあつた。   |
| L平田大六(閑川) S L須藤洋一 |
| (下越一飲料、動植物、撮影) 渡  |
| 辺啓介(閑川) 設営、気象、医   |
| 療、公害) 斎藤春夫(農業一裝   |
| 備記録、人文、会計) の4人が   |

屋久島登山  
第一回 国体鹿児島大会

屋久島は北緯30度、カイロやアーテネと同じである。現地の状況は、すべて不明で見当もつかない。『山日記』や『山岳手帳』で、手あたりしやすいに問合せを乱発した。幸に、大会実行委員の竹下楨一氏（屋久町山岳会）に干上で知り合い、いろ／＼と教えていた。気象庁の紹介で「九州の気候」のぶあつい資料を求めることができた。5万の地図は新潟ではなく、1ヶ月もかゝってようやく入手した。

現地に関するることは、つねに飯豊との比較で検討した。断面図を重ねて大熊尾根より急とか、ダイグラより楽だとかいうようにである。複雑な突起のある地形も地図や数少ない写真から想像した。こうして、気候は飯豊の9月下旬旬頃であろうと考え、おぼろげながら、屋久島の気象、地形条件を推定することができた。

装備と食料は、屋久島のド真中に新潟バー／＼ーが单独でほうりだされても充分生きのびられることを基本とした。

装備は軽量よりも完全を期した。「台風銀座」1月に35日の雨」というような屋久島についての一般的な形容が私たちの頭に固定していた。強風多雨の条件での完全な天幕と用具の設計と開発にしほられた。

雨具は、『通気と防水』といふ、伝統的な命題に直接とりくまざるを得なくなつた。生地としては旧帝国陸軍開発の逸品「イナハタ」(縦糸木綿、横糸麻)を探した。しかしだけで市販品なく「最も近い性質」のものがまんじた。上は袖のある改良ポンチョ型。下は五十嵐篤雄氏愛用のズボンを参考にして、靴をつけたまゝで着脱できるものを検討した。市販品に対抗する唯一の自衛手段は自製である。敢て私がミシンをふむことになった。オリジナルのため、型紙をホッチキスでとめて身につけてみる。バラして修正し、またつないで着てみると。隊員の寸法から型紙をいくつも設定した。この雨具は大会の役員の間で好評で「特許をとりなさい」と本気ですゝめてくれる人もいた。

この他に、記録板、小物入、帽子、タッパなど数点の装備を開発した。個人の装備は、屋久島だけに通用するのではなく、ずっとこの後も使ってゆくために、この際新調したものも多かった。

食料は嗜好を捨て、主食も含めて乾燥品を多くし、軽量とスピーダ化をはかった。昼に2回共チマキを食べた。10日も前に作ったのに変化していないのは、外装のまゝ殺菌もかねて調理してしまうという製法が保存性を高めている

だらう。小野健氏が云われたようにな珍らしがられ、他県の選手がワツときて、私たちが食べたチマキはわざかであつた。

本格的なトレーニングは8月のダイグラ尾根と、9月の朝日縱走であつた。本県隊の行動の基本は、リーダーシップの徹底と時間厳守においた。これに装備と食料のテストを重ねて改良を加えていた。もちろん、トレーニングでも本番でも酒は装備された。

48年10月23日。12時すぎ屋久島上陸。暑い。九州地方の最高峰宮之浦岳（一九三五）は見えない。

島の大きさは佐渡の63%、全体が山岳であるから、部落は周囲の海岸にタンバリンの金具のように連在しているだけである。南北に行政区分があり、両町合せて二九〇〇世帯一七〇〇人。今一〇〇〇人近く団体関係者を船でむかえ、島はじまって以来の出来ごとではなかつたろうか。純朴な人情が私たちを待っていた。

主飲料はイモ焼酎である。35%をコップに入れて熱湯で倍にうすめるところほど良い濃さと爛にれる。これが島の常法なのだ。安房の街でそのときも焼酎で上きげんの主人に、一杯やりたいから自宅の座敷にあがつてくれと云われたときほどだった。

山は三日間晴天であつた。しかし体がいい腰をおろすと、すぐにしめり氣がつたわつてくるのは、

だらう。小野健氏が云われたようにな珍らしがられ、他県の選手がワツときて、私たちが食べたチマキはわざかであつた。

本格的なトレーニングは8月のダイグラ尾根と、9月の朝日縱走であつた。本県隊の行動の基本は、リーダーシップの徹底と時間厳守においた。これに装備と食料のテストを重ねて改良を加えていた。もちろん、トレーニングでも本番でも酒は装備された。

48年10月23日。12時すぎ屋久島上陸。暑い。九州地方の最高峰宮之浦岳（一九三五）は見えない。

島の大きさは佐渡の63%、全体が山岳であるから、部落は周囲の海岸にタンバリンの金具のように連在しているだけである。南北に行政区分があり、両町合せて二九〇〇世帯一七〇〇人。今一〇〇〇人近く団体関係者を船でむかえ、島はじまって以来の出来ごとではなかつたろうか。純朴な人情が私たちを待っていた。

主飲料はイモ焼酎である。35%をコップに入れて熱湯で倍にうすめるところほど良い濃さと爛にれる。これが島の常法なのだ。安房の街でそのときも焼酎で上きげんの主人に、一杯やりたいから自宅の座敷にあがつてくれと云われたときほどだった。

山は三日間晴天であつた。しかし

やはり「多雨」のせいだらう。『植物の宝庫』ということは、草木ではなく木のことであつた。メモ

も間に合わない位に、須藤SLが

発見した名を次々に連呼してゆく。

樹令一〇〇〇年をこす屋久杉

が、どこにでもあつた。こんなに

大きくなると枝も複雑になつてい

て『杉』の感じはない。休けいの

ときも、隊員は研究に熱心だつ

た。斎藤隊員の記録は閉山式に抜

群の好評をうけた。

設営での乾燥効果はきゝすぎ

るほどだつた。他のパークの飯

ができかゝつた頃、私たちはすで

にあと片づけを終えていた。晚酌

も毎度かゝさずしてある。そんな

ことで渡辺隊員が22時の天気図を

ひくのに、夜中に一度目を覚まさ

なければならぬのは気の毒であ

つた。

屋久島の自然保護は行政上は徹

底しているようを見えた。島の76%

が国有林で、山岳地帯は特別保

護区だ。入り禁止の場所さえあ

れども、立入り禁止の場所さえあ

り立入り禁止の場所さえあ

とのできぬ連続であった。

山中行動中、十ヶ所の現在地確認が二万五千分の一地図上に求められたこと。一般コースではチー

ム毎に、一万五千分の一のコース図を渡され、三分間隔で出発し、チェックポイントを通過して集合地に下るなど、オリエンテーリングに似た方法がとられた。

先導のいる時とちがい、導標のない枝道がむやみと多い複雑な地形に、事前研究不充分のチームが右往左往するなど、正確な読図力がとみに要求された。

天気図の提出は、毎日午後四時の予報で行われ、三十分で作図結果を求められた。また作図者はチーム全体が対象にされた。作図結果は高校生が一般にまさり、一般ではその半数が研修を要するとのことであった。

体力については基礎体力、担荷力、耐久力、体力調整、訓練された体力から採点されたが、いづれ劣らぬチームが多く、本県は体格最少年チームであった。したがって歩行スピードは早く、予定期間より一と二時間、常に早く到着した女子選手の参加がみられたが、男子同様行動しているのが特徴的であった。

装備点検は行動中に行われ、大會時で最悪の気象条件を想定して雨具、非常食がチェックされた。幕営地では各チームで工夫された装備の発表があり、本県は「簡易シラフ」「雨具」などの紹介をした。

行動中の採点は日本山岳協会で

作成した、七項目の講評資料も

とづき行われた。(体力、歩行技

術、マナー、チームワーク、生活

技術、服装装備、自然観察)

閉山式において各チーム毎に

優秀チーム三県が表彰されたが、本県チームは残念ながらその中にくいこめなかつた。

講評は項目毎に上位チームが発表され、各チームの具体的得点は知らされなかつた。このことは、

登山の本質が人と人との競い合いでなく、山という自然が相手であり、自分自身に対する問い合わせであるとするならば、優劣できぬもまた当然であろう。

胸をうつ地元の歓迎

どよめく、ファンファーレに足

が宙にうくよくな、開会式の雰囲気もざることながら、山岳会場の統制のとれた組織体制と整備、心

あたたまる歓迎に深く感謝したい

きけば國体スポーツのなかで、山岳競技が最も住民とのかかわり

あいが多いといふ。

閉会式のパレードで、地元小学校の子供達が私達の名前を書きこんだ、手づくりのプラカードをもつてむかえてくれた。それは本県勢にだけあつたようと思う。出发

前の文通、今にして忘れぬ自然と人とのかかわりあるを、かいまたような気がしてならない。

山にむけて

國体に参加して「結果」はともあれ、幾多の自省と責任を感じた。

いる。守門以来きづきあげた、友

情のきづなと、つきぬ想い出をた

ゆみなく、自然と人の対話をな

かで燃やし続けたい。

また國体参加にあたり、先輩諸氏の限りなき、御指導、助言に一

から講評があり、各チーム毎に

優秀チーム三県が表彰されたが、

本県チームは残念ながらその中にくいこめなかつた。

講評は項目毎に上位チームが発

表され、各チームの具体的得点は

知らされなかつた。このことは、

登山の本質が人と人との競い合いでなく、山という自然が相手であり、自分自身に対する問い合わせであるとするならば、優劣できぬもまた当然であろう。

胸をうつ地元の歓迎

どよめく、ファンファーレに足

が宙にうくよくな、開会式の雰囲

気もざることながら、山岳会場の

統制のとれた組織体制と整備、心

あたたまる歓迎に深く感謝したい

きけば國体スポーツのなかで、山岳競技が最も住民とのかかわり

あいが多いといふ。

閉会式のパレードで、地元小

学校の子供達が私達の名前を書きこ

んだ、手づくりのプラカードをも

つてむかえてくれた。それは本県

情のきづなと、つきぬ想い出をた

ゆみなく、自然と人の対話をな

かで燃やし続けたい。

また國体参加にあたり、先輩諸氏の限りなき、御指導、助言に一

から講評があり、各チーム毎に

優秀チーム三県が表彰されたが、

本県チームは残念ながらその中にくいこめなかつた。

講評は項目毎に上位チームが発表され、各チームの具体的得点は

知らされなかつた。このことは、

登山の本質が人と人との競い合いでなく、山という自然が相手であり、自分自身に対する問い合わせであるとするならば、優劣できぬもまた当然であろう。

胸をうつ地元の歓迎

どよめく、ファンファーレに足

が宙にうくよくな、開会式の雰囲気もざることながら、山岳会場の統制のとれた組織体制と整備、心

あたたまる歓迎に深く感謝したい

きけば國体スポーツのなかで、山岳競技が最も住民とのかかわり

あいが多いといふ。

閉会式のパレードで、地元小学校の子供達が私達の名前を書きこんだ、手づくりのプラカードをもつてむかえてくれた。それは本県勢にだけあつたようと思う。出发前の文通、今にして忘れぬ自然と人とのかかわりあるを、かいまたような気がしてならない。

山にむけて

國体に参加して「結果」はともあれ、幾多の自省と責任を感じた。

村松、中条・村上、佐渡の六地区

その点では県山協の上、中、下

越区分と相異がありますので、

国体予選での選手選考には、あ

まり地区割について拘らないよ

うにしております。

なお、県山協には委員の中よ

り二名の幹事を選出してあります。

これ等役員の任期は二年で、

今年は改選期ですので、十二月

の委員会で改選されることにな

つております。

高体連の枠内で認められて

います。

高体連登山部としての組織は

部長(高校校長)、委員長(登山

部事務局担当者)、委員(各地

区代表)、常任委員(各ブロック代表)で構成され、ほかに加

盟全高校の顧問代表より成る顧

問会議も必要によって持たれて

います。

地区は、従来の上・中・下越

の区分を改め、昭和四七年度より下記のブロック及び地区編成となっています。

Aブロック(二十校)  
高田、柏崎、直江津、糸魚川  
長岡の五地区

Bブロック(十八校)  
三条、加茂、魚沼、巻の四地  
区

Cブロック(二十四校)  
新潟、新発田、新津、五泉。

校登山部独自の年間行事がある訳で、高校生としての学習や、個人的生活等の面から、登山部の年間山行日数は三十~三五日以内といった線が、全国的には常識的なものとして認められておるようです。

以上の行事の中で、高体連登山部として重視している技術講習会と全国大会予選について最近の情況を記しますと

(1)技術講習会

高体連の枠内で認められて

いる講習会費用は毎年どの専門部でも五〇〇〇円ですが、登山部としては、安全登山は先ず登山の学習からといふ見地で重視しております。かつては、本講習会の参加をインターハイ予選出場の条件としたこともあつた位

で、生徒を対象として、その年の各校の部活動に指針を与えるべく、また越後という雪の多い

条件下での登山活動という点特に高校生は三年毎にすっかり部員が入れ替わるということは地域職場山岳会と本質的に異なる点等を考慮し、残雪期を選んで毎年実施して来ました。

参加人員も高体連登山部行事中で、秋季県大会を除けば最高

外部講師にあまり頼らずに高

速連のスタッフで、実のある講習とすることも、やつと出来る

ようになります。

そして、かねて要望のあつた

| 大 会 參 加 人 員 |       |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|
| 年 度         | 4 6   | 4 7   | 4 8   |
| 大 会         | 201   | 243   | 200   |
| 地 区 大 会     | 175   | 189   | 168   |
| 小 計         | 376   | 432   | 368   |
| 總 体 兼 兼     | 男27P  | 男25P  | 男25P  |
| 全國大 会 予 選   | 女11P  | 女10P  | 女10P  |
| 小 計         | 38P   | 220   | 180   |
| 秋 季 大 会     | 413   | 393   | 330   |
| 技 術 講 習 会   | 323   | 328   | 201   |
| 合 计         | 1,332 | 1,333 | 1,102 |

上級部員と下級部員と別けた能力別指導や、顧問教師を対象として生徒対象のそれと二本立ての指導も試みる段階まで来ました。

そして、本講習会のテキストとして、また各学校での指導の手引きとするという意味で、高校登山の手びき『新潟高体連版』を編集し、昨年より使ってきました。

高校生は、「学習する登山」をモットーに、今後も各方面の協力を迎ぎながら、講習会を充実させてゆきたいと思っています。

## (2) 全国大会予選

高体連としては、全国大会はスポーツ競技として最高の場であり、国体出場以上に榮誉あるものとして認識し、各校の全国大会出場にかける夢もまた最高であります。

その為、全国大会でも、県予選でも、その運営も出来るだけ高体連の力でやりたいと努力しております。近年は各県選抜混成ペーティではなく、各学校単位ペーティで全国大会に参加することに改正され、また、伸び育つ盛りで、大いに他から吸収する盛りである高校生というところで全国参加の場での交流・交歓(学習の場)ということを重視し研究・創意・工夫を学習するようになって来ました。

本県では、全国大会参加が、その学校の発展、充実につながるので、レベルアップという見地から、初参加校より是非出場して貰い、大いに全国的視野で学習し、自校の発展充実と県全

体のレベルアップに生かして貰いたいと配慮しております。

## 三、国体出場について

前記の行事参加数に見られる

通り、国体予選参加数の少いこ

とは誠に残念で、機会ある毎に

学習の場(特に接する機会の少

い一般山岳団体の先輩より学習

できる)として参加を呼びかけ

啓蒙しておりますが、五月の連休の時期が、春の講習会(地区

大会統一)全国大会予選と連続

の山行となってしまい、日程上

国体予選参加をもこなすことが

無理となつている関係上、例年

参加十ペーティ前後となってお

ります。

しかし、さすが本県山協より

選ばれた精銳ペーティは、国体

山岳部門で表彰制が採用された

(不本意な面も多々あるが)

第29回岐阜国体以来、度重なる

表彰を受け、また全国大会に於

ても然りで、地味で粘り強い本

県人の特色を生かして、本県山

岳界のレベルの高さを示してい

るのではないでしょうか。

今次エベレスト南壁隊で東南

稜よりゴーストモンスターに登頂

という成果を挙げた石黒久君もわが高体連で基礎を育てられた人といってよいかと思ひます。

若い人は育ち成長していくも

ので、今後とも国体参加

には、力を入れてゆきたいと思

っていますが、日程については

高体連側としましても、春の行

事の過密化をさけたいと検討を

して貰い、大いに全国的視野で

学習し、自校の発展充実と県全

ここ二年間の国体参加は、

第二七回鹿児島国体

監督 笠原嘉明 (水原高)

選手 小林重一 (三条工高)

監督 斎藤誠 (三条工高)

選手 小林功 (三条商高)

監督 杉本敏 (長岡工高)

選手 五十嵐義和 (々)

## 四、最近の問題点について

(1) 部員数の減少傾向

生活様式や、趣味嗜好の多様化、テレビの影響等の複雑多様な現代の世相は、高校生にも無縁なものではなく、謂所カッコの悪い、忍耐の要ることは嫌われ、その上に進学受験競走の波にもまれて、山岳部に入部する生徒の数は、一般的には減少傾向にあり、底辺拡大という点から考えると憂うべき事態となつております。

伝統を重んじ、正統的な部の活動を持続しようとなれば、ハケについて来れず、同好会的な生徒の数は、多いといつたこの傾向は、高校のみではなく、大学や、一般山岳会にも多く見られることではないでしょうか。

しかし一方で、現代の機械、物質文明や、高度な管理社会にあっては、伝統を受け継ぐべき一般山岳会の最近の若い人達の傾向を見ても、ご理解戴けておられます。

このことは、伝統を受け継ぐ

条件の厳しい中で、生徒と山へ

共に入り、山の中で生活する

いうことから始まり、奥行きの深い登山活動の指導も受け持つ

に山岳部顧問について、自然

岳部のみではなく運動部全般に

顧問が積極的に引受けようとい

う欲のある若手がおらず、特

に高体連、県教委、県山協、

山協、文部省と主催者は異なれ

れも全国的な会議でも話題とさ

れていることがあります。

クラブ活動がいかにあるべきかを問いつて直されている中で、顧

問の任務、責任、位置づけや、

顧問としてのクラブに対する価

値観、教員の時間外勤務問題等

等といった高校教育内部に在る

問題や、外部の責任事故からは

厳しく追求といったことで、山

岳部のみではなく運動部全般に

顧問が積極的に引受けようとい

う欲のある若手がおらず、特

に高橋小一郎

文責 高橋小一郎

引き入れ、山を好きにさせやみつきにし、それから指導者としての教育、訓練が始まるものだと思います。

高体連、県教委、県山協、日

研修の機会は以前より恵まれて

いるのですから。

要は進んで研修を受ける気運

をいかにしてかもし出し、また研修を受け易い条件整備をして

が、現在指導的立場にいる我々の任務ではないでしょうか。

研修を受け易い条件整備をして、若い指導者を育成するか

をいかにしてかもし出し、また研修を受け易い条件整備をして、若い指導者を育成するか

が、現在指導的立場にいる我々の任務ではないでしょうか。

研修を受け易い条件整備をして、若い指導者を育成するか

が、現在指導的立場にいる我々の任務ではないでしょうか。

今西博士と仙ノ倉山へ登る

長岡ハイク 片桐一夫

八月十九日夕刻、室賀さん宅へ

寄り仕事の終のを待つて、室賀さんと湯沢の富士屋旅館へ車で走

りました。元岐阜大学長の今西錦司博士一行が昨日来原され、今日

は巻機山へ登山されているはず

で、下山後湯沢温泉に泊られ、明日には谷川岳連峰の平標山、仙

ヶ岳へ登山のスケジュールとなっていました。

我々が富士屋旅館へ着いてしまくすると一行が元気な顔を見せ

て富士屋旅館へ到着されました。今西博士も七十一才という高令を

少しも感じさせずカクシャクとしておられ、夜の宴にはビールで意

氣盛んになつておられました。

翌二十日も好天に恵まれ、六時

起床、朝食の後午前七時三十分、赤い台車に分乗し国道を上り、赤い

湯貯木場より左へ河内沢林道を進み、登山道の取り付けまで車で入りました。こゝよりいよいよ登りにかかるわけですが、朝のすがくしい空気の中での朝つゆに輝やく熊ザサを分けながらの登行は快適であり、ピッチは快調に続きました。しばらく登つて現われるブナ林に入ると、ほどよく汗ばんだ体を朝の涼しい風が冷やしてくれ、今西博士も気持良さそうに登つておられました。十時五分には平標小屋に着き、軽い食事の後平標山頂に向かつたわけですが、こゝよりは今西博士が急にトップを歩かれ始め。ピッチのおとろえは少しもなくグングン先行されるので、皆あっけにとられてしまったのです。十一時に平標山頂へ到着し、今西博士独特のバンザイをやり、ビールで乾杯となりました。こゝで今西流バンザイを御紹介しますと、まず両手を左下に下ろし、右手上に向かって両手を上げ、バンザイとなるわけです。たゞこれだけの動作ですが、独特的な意味を感じさせられました。さて平標山頂でしばらく休憩した後、仙の倉山へは少し下り、平坦な草原帯を歩きながらむらさき色に咲くトリカブトやトウヤクリンドウなどを観賞しながらの行程で、高原の散歩という感じです。この頃よりガスが出来始めガスの切れ間に時々下界が見える程度の天候になってしまい、仙の倉山頂ではついに谷川岳本峰の方は何も見えなくなってしまった。しかし山頂で

再び今西流パンザイをやり、ビル、スイカ、モモなどで腹を満足させ和氣合々談笑のうちに山頂へひとときを過しました。今西博士はまた気さくでユーモアのある方で、ワイシャツ談議などを話され同行の我々を笑わせられ、数年来の先輩のような親しさと見えました。およそ四十分程頂上で休憩した後十二時四十五分、下山にかかりました。下山の時もヒザが笑うということもなく今西博士は快調に下られ、十五時五分登山道取り付きに到着。十五時五十分には一行全員が富士屋旅館に無事集合し、御主人の御好意で温泉に入れてもらい、サッパリしたところでビールで乾杯となつた次第です。

夏山登山講習会

長岡ハイク 田中栄弘

に八〇余名の岳人が県下全域より参加され、又千葉国体山岳部門の候補選手も集り盛大な岩登り、沢歩き講習会となつた。

開講式後、講師により登山のあり方、登山用具全般について、その他いろいろの質疑応答ありながら、一夜を過した。翌朝各山岳会員クラブ員の入組んだ八ツの班編成をして土樽を後にす。大滑沢の出合で晴天にめぐまれた青空の下にて朝食後、各班リーダーの指導注意のもとに沢の遡行に入る。遡行約一時間後大滑の白板と言われる右岸のスラブに出る。ここでザイル、三ツ道具を出して、歩行術、ルートの選び方、結束方法を学び、各班ごとに岩場の実践に入る。岩登りの基本技術、手がかり、へつり、下り方、又応用技術の特殊なホールド、摩擦、懸垂、ハーケンの打ち方、ザイルの応用、岩場の危険、確保、隔時登攀、連続登攀等を勉強、研究し、反復練習を行う。スラブの下部にて昼食をすませ大滑沢を一気に下る。予定通り三時、全員無事に土樽山の家に到着、閉講式後今回の講習会を基礎にして次回の山行に再会を約束し日出度く解散となつた。今回初めて沢、岩に入る人には、いきなりの急斜面で随分苦労されたようですが、いろいろ為精進されたといいます。最後に協会役員の方々はじめ、参加者全

## 県民スポーツの日 の登山

中越地区 杉本 敏

に県内各地で各種のスポーツ行事

山岳も中越地区に於いては、六

に、土樽、茂倉新道を徑て茂倉、

へで無事終了した。

山の家の灯を頼りに階段状の道を登って行く。今は亡きヒゲさんの

銅像が右手に、一とう、君達来た  
が。無事にまた俺の前を通って帰

「よ」と言わんばかりだ。暖かい黙言の言葉に黙礼をして玄関の鐘

山の家にはいへ  
を喰らひだから

先客の海賊山の会、和道長間ハイク続いて燕山岳会、汽車で来

々であるが、ぞくぞく山の家に集  
よつた。

参加者が揃つたところで、県民ホールの日程

とコース概況などの説明が、実行委員の方からあり、続いて自己紹

の春の山菜、あけくはアスパラの  
末養学までとびだし、話題は尽き

ことがなく楽しい親睦会になつた。

三日、朝もやのまだ残る中、広場に集合する。朝参加という人も三、四名も加わって大部隊になつた。山の家の山手側の道を通り、上越新幹線工事を行つている万太郎谷を右にみて、蓬沢の釣橋で朝食をとつた。

空模様も高層雲、絹層雲の間から僅かに青空が見え今日の山行の先行きを楽しませてくれる。

ケサ丸原に入り樹齢五十年は過ぎた杉林の中を抜ける。ここから茂倉まで標高差千メートル。四五メートルに対して一メートル登っている計算になるから相当大きい登りが想像できる。今日の県民スポーツの日は登山を通して健康向上、各山岳会の親睦、と中越区ではもうひとつは清掃登山に登山路の整備を予定した。最近の山の汚れ具合は特にひどい。自分だけの山ではない、すばらしい美しい自然是皆んなのものだ、大事に使いいみんなから喜んでもらい、さらに山に対して理解してもらいたいものだ。

ササ、空木、ナラの小木を刈りはらい今年も安全登山を念じながらコース整備をやりながら水場迄行つた。

檜廊下も過ぎて矢場の頭では、先程までみえた青空も層雲に被われてしまい視界がきかなくなつた。

露にぬれたシャクナゲの花を見ながら川棚の頭に着いた頃、天候

ももなおし南の方角から青空が  
みえ始め、万太郎山の男性的な雄  
姿が谷へだてて目の前に浮かび  
上がった。

茂倉岳に着いたのが、山の家を  
出発して五時間が経とうとする十  
時四十分。途中コース整備があつ  
た関係非常にゆっくりした登りで  
あった少し早い昼食を済ませて、  
谷川岳へと向う、さすがに土合コ  
ースは人が多い。残雪を滑べつて  
楽しんでいる人、日向ぼっこしな  
がらラジオを聞き入る人、さまざ  
まである。比較的人の少ないオキ  
厳剛新道を経て土合駅を目指して  
一気にかけおりた。千葉国体の県  
選手団も参加して、終始なごやか  
な裡に県民スポーツ登山も終了し  
た。

### お詫びとお願い

私事の都合で四十七年度の会報を  
発行することができなかつたこと  
を深くお詫びいたします。  
四十八年度の会報の原稿依頼申  
しあげたのが昨年の十月でした。  
そして折あることに催促いたすよ  
うにしておりますがなかなか原稿  
が集まりません。この度は殊に四  
十七年度分含めて頁数を殖す予定  
にしておりましたが、お願いした  
半分も集まらず閉口致しました。  
県民スポーツの日の登山報告も  
その通りで中越地区だけで淋しい  
限りです。

岳山協加盟団体で海外へ遠征さ  
れる山岳会も多くなつてしましました  
が原稿をさつぱりだしてくれませ  
ん。十日町山路野会だけだったた  
は残念に思います。

それほど多忙のことではな  
けれど、会報『越後』発行に今後  
共に協力くださるようお願い申し  
あげます。

編集子

## 山心一路

岐形山岳会 井口正男

48年はまだ登つたことのない未  
知の山。北海道・十勝岳、羅臼岳  
と会津、田代山、帝釽山そして  
上越、菱ガ岳と登れたことは体の  
健康で行かれたことと共に心から  
感謝しています。

泉が涌き出ることなく懇々と汲め  
どもつきぬ山登りが私は好きで、  
花火のような華やかにぱつと出て  
消えてしまう山登りは好まない。  
昔の山仲間はスキーを始めるとき  
ついに熱中して山登りは愚かになり  
ついではおさらばと云うケーブルが  
多いようでした。

近年はわが県も社会情勢の変動  
とともに山の社会も変つて来て山  
小屋経営者を除いては山のプロ  
はわが県にいなかつたのですが近  
年は自称プロが誕生するように変  
り、魚釣りに熱中すると山登りは  
だめになるようです。又自動車旅  
行も同じようです。いつまでも山  
一筋山心一路の登山をつづけたい  
と思います。

新山協の財源の一つと新潟国体  
山岳10周年を記念して飯豊りんど  
うを国案化したチーフリングとネ  
クタイピンを作製して加盟団体会  
員に買上げをお願いしましたが、  
PRの不足と正直申し上げて出来  
が少々よくなかったので、かえつ  
て県山協の負担となりそうなので  
責任を感じています。このことを  
通して見ると各山岳会の性格とそ

の指導者の考え方の一端が表われ  
ています。

ある会は割当られた数を全部消  
化してくれた会もあり一人で3個  
も4個も引受けてくれた人も  
あり、一生懸命販売してくれまし  
たがどうしても残部が出たとあや  
まつて来た会もあり、会で1、2  
個だけ買上げ後は返品して来た会  
もあり全然売らずそつくり返品し  
て来た会もあり、又いままでに全  
て来た会の様子が表われていると  
思います。

本年又日本隊によつてエベレス  
との登頂に成功しました。この登  
頂の隊員の一人はわが県人でわれ  
われとしては大いに誇つてよいの  
でしよう。又高校国体選手として  
選んだこともあり、われわれの国  
体選手選考の方法がまちがつてい  
なかつたことは喜んでいますが、  
郷土の山のために貢献してもらい  
協の方針には東京在住ではなんに  
もならないようです。

山岳遭難事故と交通事故はだん  
だん身近にせまつて来るような気  
がします。

御互いに気をつけて安全登山、  
公徳登山を心がけて、山一筋の山  
心一路の登山をいつまでもつづけ  
ましよう。

## 新山協だより

井口正男

### △昭和四十七年度評議員会

四月九日上越市国府別院で開催

出席者四十六名、四十六年度事業

会計報告、四十七年度事業計画発  
表、予算案審議、終了後懇親会

△五月六日～七日第二十七回国体  
予選会を二王子岳で開催。参加者  
一二〇名。好天に恵まれ、オーバ  
ン参加も含め有意義な予選会であ  
った。後日選考委員で慎重審議の  
結果、一般監督平田大六、選手に  
下越山岳会須藤洋一、農業山岳会  
斎藤春夫、関川村山の会渡辺啓介  
高校監督笠原嘉明、選手に新潟工  
高小林重一、三条工商斎藤誠が、  
それぞれ選ばれた。

△六月三日～四日、県民スポーツ  
の日登山は各地区で左の通りおこ  
なわれた。

上越地区、白鳥山、担当さわが  
に山岳会。中越地区、栗ヶ岳、担  
当秀峰山岳会。新潟、下越地区、  
楡形山脈、中条山の会。

△夏山登山講習会、七月十五日  
十六日、九十名の参加を得て土樽  
の家に泊し、仙ノ倉谷の大滑沢  
で沢登りと岩登りを主体として行  
ない好評をほくした。

△新潟県登山祭、七月二十五日、  
弥彦山にて、たいまつ下山が盛大  
に行なわれた。参加者約一五〇名  
△指導員研修会、十二月二日～三  
日、新潟県青少年研修センターで  
ハイキングクラブの担当で苗場山  
にて行なう、好天に恵まれ八〇余  
名でたのしい登山であった。

△親睦登山。十月七日～八日長岡  
市、新潟県青少年研修センターで  
読図を主体とした研修を行なう、  
参加対象者、第一種第二種及地区  
指導員全員。

△五月の第一日曜日の前後の週に  
各地区に別れて開催、新潟、下越  
地区二王子岳、中越地区谷川岳、  
上越地区妙高山、盛大に楽ししく行  
われました。担当各山岳会の方々  
御苦労様でした。

△夏山岩登り沢歩き講習会  
七月十四日～十五日谷川連峰北  
面の谷、小松沢附近で開催、参加  
者八十六名。

△第二十回新潟県登山祭  
七月二十五日弥彦山で開催、參  
加者二五〇名。

若い人達の参加で有意義な会で  
した。指導員研修会も併催。

△第二十一回新潟県登山祭  
七月二十五日弥彦山で開催、參  
加者二五〇名。

中央講師として三田幸夫、折井健  
一氏を迎えてウィークデーで参  
加者の人数が心配されたが事前の

改選、会長内藤修、副会長望月力  
井口正男、理事長鈴木敏雄、理  
事小野健、永高賢、藤井信、平田  
大六、五十嵐力、曾山志計雄、笹  
川和男、小林兼一郎、高橋小一郎  
、安野正弘、監事、藤井洋、土田  
幸雄、の諸氏が選ばれ終了その後  
親睦会を開催各山岳会との交流、  
親睦を深めた。

PRがよかつたせいか多数の参加を得て盛大だった。二〇回を記念して功労者 山岳会に表彰状が渡された。

## △親睦登山会

十月十三日~十四日西蒲原郡角田山で開催、参加者三〇名。

案内がおくれたため、山が安いの行事と重なったため、山が安いのため二日がかりではもつたないのか参加者は少なかった。地元の山岳会の皆様骨折りありがとう御座いました。

## △冬山登山技術向上研究会

十一月十七日~十八日北魚沼郡入広瀬村~山伏岩附近、参加者一五〇名。

毎年開催されて来た遭難救助訓練が通り実質ともに一步前進した。

指導員研修会も一所に併催され、おりから初雪の中で参加者一同熱心に研究しあった。

## △新加盟山岳会紹介

岳志会 会員一四名 代表 藤本忠雄 上市南本町三 山口美勝方 入広瀬村体育協会登山部 会員一六名 代表 浅井秀一 北魚沼郡入広瀬村役場内 電話 二、三、四、大和町山の会岳峠 会員二三名 代表 大久保晴夫

南魚沼郡大和町浦佐役場内 電話七一三一ー 朝日山岳会 会員二〇名 代表 佐藤武治

岩船郡朝日村岩沢森林組合内 電話館腰七五

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 協和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

北蒲原郡中条町 协和ガス化学 内 電話三一一三六〇

指導員会会长 杉原八百樹 遭難対策委員長 藤井洋

会員二三名 代表 三浦孝磨

翌朝大部冷え込んでいるようだ（零下三度）赤谷線の一一番列車で二人参加することになっていたのでその二人の到着を待つて頂上に向う。コース案内に地元の小林、菅の二人、平田、松田、井出の三人氏に各班長になってもらい登りながら班毎に講習を行なう。

一登りにかかる頃から北西の風が強くなり吹雪となつた、天狗ノ庭附近のリッジはウジの沢側に大きな雪庇となつていて、赤倉又沢側をトラバースで登るのは楽でない、風当りの強いところはクラス

三月二十三日~二十四日一泊二日、下越地区担当で焼峰山（一〇八五・六m）において雪洞を主体とした講習会を行なつた。

赤谷地区は豪雪のため、駐車場がなく自家用車でくるのを遠慮申しあげたこと、実施要項の発送が遅かつたせいか参加者は僅か三十四名であった。

滝谷集落はまだ屋根まで届くような雪道におどろく、林道から登ったが、「もし山が見えるならば」と予定していた池ノ平上である。雪洞の種類、長所、短所、造り

方等説明したのち一パーティー毎に壊りはじめた。無風状態にボタ雪が降りだした、参加者の殆んどが雪洞の経験者ではなかろうか、みんな手際よく要領よく壊つていい。四人乃至五人用で一番早いパーテーは一間十分位、遅いので一時間四十分位であった。

## 日山協分担金 値上について

最近物価の昂騰は著しいものがあります、特に紙類、印刷等は御承知のとおりで事務費も含め現在

の財政では到底運営ができなくなつたり最小限度の値上げ案が現在討議されていますが、それによるところの通りです。

現行制度、基準二万円で一団体五〇〇円、当協会は七七団体です

ので二万円プラス三万八千五百円となり、一万円未満は四捨五入でですから六万円だった訳ですが、改正案は、基準は変りなく二万円で一団体千円になります、つまり二万円プラス七万七千円で九万七千円になる訳で実質的な値上がりは三万七千円になることになります。

当然それはね返りは加盟団体分担金の値上げとなる訳ですが、当協会としては極力これを避けたい所存です。そのためには大変申し訳ないが、先に作成したチーフリング、ネクタイピンの完売ができれば四十九年度分については分担金の値上げをしないで済むことになりますので、いろいろ問題もありましようが是非これの完売に御協力くださるようお願いいたします。

山岳遭難予防 文部省主管全国山岳遭難対策協議会の開催七月十一日~十三日。遭難対策地区別研究協議会、全国十

月。自然保護活動の推進。山岳自然破壊防止運動の推進。山岳自然保護活動の推進。山岳自然破壊防止運動の推進。

国民体育大会山岳競技の運営 その他海外登山の計画審議と指導

本年度推せん状発行は次の通り。ネパール関係十五隊。パキスタン関係六隊。カナダ関係一隊。アンデス関係二隊。

月五日~九日。文部省登山研究会の後援年間。第十二回海外登山技術研究会の開催一月一九日~二月二十二日~二月二十六日。第一種公認指導員検定会の実施十月~二月

登山道德の啓蒙普及 壁新聞（夏山を安全に楽しむ）発行六月。壁新聞（きびしい冬山を安全に）発行十一月。全日本山岳写真展覧会の後援七月。春夏冬山安全登山のキャンペーン、冬山については「冬山警告」を発行十二

月。自然保護活動の推進。山岳自然保護活動の推進。山岳自然破壊防止運動の推進。

国民体育大会山岳競技の運営 その他海外登山の計画審議と指導

本年度推せん状発行は次の通り。ネパール関係十五隊。パキスタン関係六隊。カナダ関係一隊。アンデス関係二隊。

登山月報の発行。山岳手帳の発行。海外登山技術研究会報告書の発行。

簡単に記しましたが、以上で事業報告にしたいと思います。

## 日山協48年度事業報告

第十七回全国高校登山大会共催八

文責 五十嵐篤雄